

# 集学的治療により長期生存できた門脈本幹の腫瘍塞栓を伴う 巨大肝細胞癌の2例

高田 和英    中根 英敏    上田 秀一  
横山 圭二    森原 大輔    西澤 新也  
阿南 章      竹山 康章    入江 真  
岩田 郁      釈迦堂 敏    早田 哲郎  
向坂彰太郎

福岡大学医学部消化器内科

要旨：門脈本幹の腫瘍塞栓をともなう進行肝癌に対し、様々な治療を駆使して QOL を保ちながら長期生存させることができた症例を経験した。症例 1 は38歳の男性で、症例 2 は49歳の女性。いずれも B 型肝炎ウイルス (HBV) キャリアで、ラミブジンを開始後、シスプラチン (CDDP)・5-FU, CDDP・ロイコポリン・5-FU, インターフェロン・5-FU, 放射線療法と DSM による肝動脈塞栓術などを用いて治療した。2 症例とも若く、かつ HBV に対し核酸アナログが投与され肝予備能が保たれた点が重要であったと考えられた。

キーワード：肝細胞癌, 門脈腫瘍塞栓, 長期生存, 集学的治療